

これまでの努力を一瞬に込めて

第30回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演
東京公演ニュース

未来へ
国立劇場の夏
最高の舞台で
観客の笑顔を見るために
錦城高校・本郷高校新聞
共同編集・印刷

完璧な準備で本番へ

8月23日(金)、第30回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演のリハーサルが22日(木)に続いて行われた。今日から始まる公演に向けて、全国大会で優秀な成績を収めた高校生たちが最後の仕上げに励んだ。今号では、23日のリハーサル2日目の様子をお伝えする。



稽古部屋でリハーサルに向けて体を慣らす必由館高校

舞台を支える裏方たち

獨協高校の鈴木晴斗くん(1年)、舞台係として東京公演を支えている。仕事は、太鼓などの大道具を舞台係に運んだり、プロの大道具係ですが、自分の仕事に誇りを持って頑張りたいです。最後は松本くんは「この東京公演で学んだことを今後の生活に生かしていきたいです」と意気込んだ。(錦城高校・山崎)



力を合わせて道具を運ぶ



軽快で厚みのある音色で会場を包む
八重山農林高校

沖縄県八重山農林高校 郷土芸能部は地元の石垣島で毎年行われている、豊作を願う祭りの、豊年祭(プールの恵み)だ。石垣島で伝統的に受け継がれている舞いや、ゆったりとした音色を、三味線や笛などの楽器や伝統衣装を用いて披露する。

星茶づくりのひととき
本劇場2階では、都内の高校の茶道部員が来場者に呈茶をしている。休憩時間にロビーで配布されているお茶券をもらって、お菓子とお抹茶をいただくことができる。高校生のお前点を間近で見ながら、お茶の味を楽しむことが可能だ。
呈茶をするのは、東京都高等学校文化連盟茶道部門に所属している高校の生徒たち。実際にお前点をした都立府中西高校上村葉葉さん(2年)は「いつもとは違う場なので、すごい緊張感がありました」と振り返る。
美味しそうなお茶を飲んで来た来場者の小川富美子さんは「お茶はきれいに泡が立っていて、とても美味しかったです」と満足顔だった。このお茶会は本日も催されているので、お茶券を手に入れてぜひ、「茶の世界」を体験してみよう。(錦城高校・栗須)

応援の気持ちを届ける来場者
劇場の外のベンチにて、親子仲良く会話していた羽尻宝さん・菜々美さん親子。娘の菜々美さん(1年)は創価高校琴部部に所属し、今回の公演に出演した。菜々美さんは公演を「悔いなく終ることが出来ました」と振り返る。一方の宝さんは「ラッキーなことに座った席が娘の目の前だったんですよ」と嬉しそうに話してくれた。初めて聴く菜々美さんたちの演奏に感動したそうだ。「今度は娘の代が後輩を引き連れて、またここに帰ってこれるように頑張ってほしい」と来年に向けてエールを送った。
休憩時間にロビーでお茶を飲んでいた藤沼里美さんは、鹿児島県立屋久島高校の卒業生。母校の演劇部が東京公演に出演することを高校の同級生から聞きつけ、来場したそうだ。高校生が地元の自然に関する内容を取り上げ、演じることに藤沼さんは感心したという。「力いっぱい頑張ってくださーい」と後輩にメッセージを送った。(錦城高校・栗須 山崎)

星野高校 (日本音楽)
日本音楽部門、星野高校琴部が演奏するのは清水脩作曲の『風景』だ。この曲は古典的な技法を大切にしつつ合奏の良さを引き出しているのが特徴だという。
4つのパートに分かれた部員による演奏の練習はピタリとそろった礼から始まった。息の合った演奏が軽やかなメロディのなかで荘重な音を響かせる。章が変わるごとに筆柱を動かして音調を変化させることで、四季の移ろいや人間の希望、街の賑わいなどが描き出される。

関西創価高校 (日本音楽)
『三つのフェスタ』を演奏する関西創価高校琴部。今回で10回目の東京公演出場になる。この曲は『五重奏』で「一、市のおもいで」「二、夜の地車」「三、木偶まわし」の3章構成となっている。

必由館高校 (郷土芸能)
熊本市立必由館高校は、和太鼓による『肥後の鼓舞(まの)』を披露する。リハーサルは立ち位置の調整から始まり、その後演奏を行った。代々部活で受け継がれてきたという熊本市が描かれた幕を背景に、熊本の情景をイメージした雄大な大迫力の演奏が、大小

ふたば未来学園高校 (演劇)
福島県立ふたば未来学園高校演劇部が演じる『Theater』は演劇部員たちが留学生インドラと共に成長する物語だ。物語は部員一人ひとりにスポットライトが当てられ、自分たちの過去を、進む時間の中で見つめ直すもの。この作品では部員35人が自分の名前と同じ役を演じている。実話という点もあり、見る人は登場人物に感情移入することが出来る作品だ。
入念に行われたリハーサルは約2時間に及び、演者の立ち位置や劇中に用いるミラーボールの明るさ調整などが行われた。その後の通し練習では、工夫された照明やBGMによって臨場感ある作品に仕

返子開成高校 (演劇)
返子開成高校演劇部はこの舞台で『ケチャップ・オブ・ザ・デッド』を披露する。「オブ・ザ・デッド」という言葉通り、山奥の廃墟で映画撮影をしていた大学生3人組の前にゾンビが現れる話だ。

深川高校 (特別公演)
都立深川高校演劇部が特別公演で演じるのは、部員によるオリジナル脚本『ヘアー』。リハーサルで行われたのは、照明、小道具、立ち位置などのチェック。音響の確認のため劇の一場面を演じていた部分では、目線や立ち回る範囲といった細かいところまで指示が出ている。同じシーンでも何回も練習しているところも、出演者たちがグリーコのポーズをしたり、「一年生になったら、個性的な演出が多数ある。他では見られない、オリジナルティあふれる演技や劇中で使用される音楽に注目だ。

息の合った演奏を魅せる
曲の始めは会場に1音1音繊細な音が響く。中盤は緩急つけた演奏で、美しく、また力強い音が奏でられた。テンポの早い部分や掛け合いなども、パートごとに音と姿勢の揃った演奏をみせた。

全身を使って大迫力の演奏をする
リハーサルでは礼のタイミングや座る位置の調整などが入念に行われ、計3回の通し練習を行った。通し練習の途中にも劇場スタッフやステージに入って調整が行われた。綺麗な響きの音色はもちろん、演奏する姿勢の美しさにも注目してほしい公演だ。

本人たちが演じる実話に感情移入させられる
返子開成高校演劇部はこの舞台で『ケチャップ・オブ・ザ・デッド』を披露する。「オブ・ザ・デッド」という言葉通り、山奥の廃墟で映画撮影をしていた大学生3人組の前にゾンビが現れる話だ。

リアリティーあるゾンビの演技
様々な大道具や大量の新聞紙が不気味な雰囲気を出し、軽快かつ現代社会にチャリと刺さるゾンビの独白が舞

リハーサル2日目の様子をお伝えする

リハーサル2日目の様子をお伝えする

埼玉県川越市にある星野高校の箏曲部は、3年生9名2年生17名1年生20名の総勢46名。朝練も含め毎日精力的に活動している。

今回、箏曲部が演奏するのは、清水脩作曲の『風景』。4パートに分かれ、それぞれ異なる音を奏でる。部長の古寺優里さん(3年)によると、お互いのパートをよく聞いて演奏することを心掛けているという。また、『風景』を演奏するにあたって「自分たちの思い描く風景を決め、それを部室に張り付けて練習してきた」と古寺さんは語る。東京公演が決まった後は、他の曲も練習する必要があったため『風景』の練習時間が減ってしまった。日本一という看板に恥じぬよう、以前の大会でしてしまった音程のミスをしないように厳しく練習したそうだ。



これまでの感謝を届けたいです

古寺さんはリハーサルを振り返り「スタッフがプロの方なので絶対にミスできない、ライトが眩しくて素晴らしい舞台だなと感じました」と笑顔。最後に本番に向けて副部長の北原瞳さん(3年)は「26名での最後の演奏なので今までの成果を発揮できるように全力でやりたいです」と意気込んだ。(錦城高校・瑤樹)

日本音楽 星野高校

日本音楽 関西創価高校

大阪府にある関西創価高校の箏曲部は、全3章で構成される箏曲『三つのフェスタパレード』を演奏する。リハーサル後、前部長の笹井里奈さん(3年)と現部長の鈴田かな恵さん(2年)の2人に話を聞いた。

「一期一会を大切に、聞いて下さる方一人ひとりに演奏を届けたい」と語る笹井さん。部全体がこの東京公演での明確な目的を持ち、演奏にのぞむことを意識しているそうだ。

『三つのフェスタパレード』は、章ごとに異なる情景や色、緩急を全員が一体となって表現する。「リハーサルでは、パートごとの音の響きを感じながら演奏することができたのではないかと鈴田さん。毎日部員と声を掛け合って練習することで、一糸乱れぬ演奏をすることが出来るようになるという。



希望の曲を届けたいです

笹井さんは「国立劇場での舞台を最後に3年生は引退することになるので、今まで支えてくれた人に恩返しができる発表にしたい」と話す。「私たちの演奏で、聞いて下さる方少しでも希望を届けたい」と2人は本番に向けた決意を語った。(錦城高校・竹村)

郷土芸能 必由館高校

熊本市立必由館高校の和太鼓部は「心をひとつに〜和〜」をモットーに活動している。部長の今村美咲さん(3年)は「この言葉には、個々のフレーズが違ったり互いがライバルだったりしても、演奏をするときは1つになって和を奏でるという意味があります」と語る。



自分たちも楽しみお客さんを笑顔に

舞台上で演奏できる人は限られていて、その中でも切磋琢磨して練習しているそうだ。副部長の小松野友里さん(3年)は「日本一になるという目標のため、演奏だけでなく見た目にも気を配っています」と話した。小松野さんは「毎年『肥後の鼓舞(まる)』という同じ曲を代ごとに改善して演奏しています」と語る。今年は大太鼓のソロを増やし、大迫力になるよう改善して、熊本のおおらかさをより強く表現する。

必由館高校の和太鼓部は、ほとんど全員が初心者からスタートし全国大会に出場するまでに上達する。「演奏会や地域のお祭りなどでさまざまな経験ができたことが、成長に繋がりました」と小松野さん。今村さんは本番の演奏に向けて「仲間との最後の舞台なので、悔いの残らないように叩ききりたいです」と決意を語った。(錦城高校・中村)

郷土芸能 八重山農林高校

南西諸島の西端、石垣島にある沖縄県立八重山農林高校の郷土芸能部は部員28人。地域の伝統文化を継承するため、毎日練習に励んでいる。リハーサルを終えて「1時間という限られた時間で、本番への準備を万全にすることが出来て良かった」と部長の新城愛結さん(3年)は表情を緩めた。



沖縄の伝統を自分たち若者の手で受け継いでいきたいです

今回の舞台『瑞穂の恵み〜豊年祭(プール)より〜』は、地域行事で部員のほとんどが小さい頃から親しんできた踊りだ。副部長の小濱愛海さん(3年)は「地域の行事に参加したいと思ったのが入部の決め手」と話す。

イリク太鼓のリズムは昔から受け継がれてきたという。副部長の嶺井泰志さん(3年)は「伝統を次世代に継承していこうという気概があり、クラスの半数以上が青年会に参加して地域行事に関わっている」と語った。

10年ぶりの東京公演となり、卒業生や島の方から喜びの声が届けられているそう。新城さんは「島の方たちの支えでここまで来られた。この舞台で恩返しができるよう頑張りたい」と意気込んだ。(本郷高校・阿部)

夢の舞台で輝くために 国立劇場リハーサル2日目

演劇 ふたば未来学園高校



見どころは最初から最後まですべての演技です

最後に本番への意気込みを聞くと、森崎さんと鶴飼さんは「地区大会を勝ち進むにつれて背負うものも大きくなり、ついには全国まで来ました。この膨らんだ思いを無駄にせず、このメンバーで創る最後の舞台を悔いなく終われるよう、全力を尽くします」と力強く語った。(錦城高校・菅原)

福島県立ふたば未来学園高校の演劇部は、『Indrah〜カズコになろうよ〜』を演じる。部長の森崎陽くん(3年)、副部長の鶴飼夢姫さん(3年)、大田省吾くん(3年)に話を聞いた。

大田くんによれば、福島県双葉郡には東日本大震災の影響により休校となった5つの高校がある。それらの高校が統合され、5年前にできたのがふたば未来学園高校だ。今回演劇部は、休校となってしまった高校の思いも背負って劇に臨む。大田くんは「復興の基準は人それぞれですが、震災を通じて成長した自分たちを見てもらいたいです」と話す。

今回の劇は、演劇部が昨年の8月から練習を続けている、本人が本人を演じるノンフィクションの劇だ。3人によれば、自分を演じるためには自分を見つめなおすことが必要で、自分が変わるきっかけにもなるという。

演劇 逗子開成高校

練習に励んでいる。部長の坂巻虎太郎くん(2年)は「今年度からは筋トレを導入し、身体づくりにも取り組み始めました」と話した。

今回東京で公演するのは『ケチャップ・オブ・ザ・デッド』。逗子開成高校演劇部オリジナル脚本で、昨年7月から練習を始めたという。これは山奥で出会ったゾンビと、大学生3人がホラー映画を撮ろうとする話。「ゾンビとの意思疎通にも注目です」と主人公役を務める角田哲史くん(3年)。また、今回は特別にケチャップの使用許可が下りたそうだ。



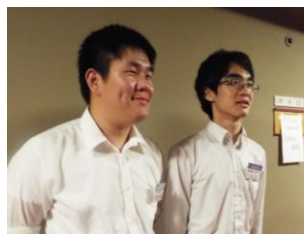
ケチャップを使った演出を楽しんでほしいです

今回の東京公演を最後に引退する角田くんは「中学生から続けてきた演劇生活にひと段落つけるため、悔いの残らない公演にしたいです」と熱く語る。坂巻くんは「3年生を送り出すという意味も込めて、全力で楽しんで、全力でお客さんを笑わせたいです」と本番へ意気込んだ。(錦城高校・指田)

特別公演 深川高校

練習を始め、何度も通し練習をして反省点をあぶり出し、より良いものに改善してきたという。高橋くんは「見る人によって劇に対する感じ方は違いますが、ただ面白い、つまらないだけではなく見る人が何かを感じる劇を目指してきました」と話す。石毛くんは「脚本を作る上で紆余曲折を経験したので、面白さには絶対の自信があります。自信をもって、お客さんに僕たちの演技と思いをぶつきたいです」と意気込みを述べた。

2人は「国立劇場での公演は初めてなので緊張しますが、お客さんを楽しませたいという思いの方が大きいです。ラストシーンが面白いので注目して下さい」と力強く語った。(錦城高校・菅原)



面白いラストシーンは必見です



花吹雪の中で演奏します

日本音楽部門合同チーム

2日目のスタートを飾るのは、都立白鷗高校、都立東久留米総合高校、青稜高校の3校からなる日本音楽部門合同チームの『編曲 元禄花見踊』だ。三味線などの和楽器が合奏を繰り広げる。終盤には花吹雪が舞い、演奏に華を添えた。東久留米総合高校の大平菜月さん(2年)によると、花吹雪の中での演奏には苦労したという。白鷗高校の諏訪桃子さん(2年)は「観客の皆さんの記憶に残るように頑張ります」と話す。青稜高校の鳥井志穂さん(2年)は、自分も楽しんで演奏したいと意気込んだ。(本郷高校・草間)

佐賀西高校合唱部

同じく2日目オープニングを担当する佐賀県立佐賀西高校合唱部は「無伴奏女声合唱のための『はにわ三態』と『誓う』女声合唱とピアノのために」を披露する。リハーサルでは、部員の立ち位置と音響の調整や、ピアノの設置場所の確認、2回の通し稽古が行われた。透き通るような美しい声が会場で響き渡った。リハーサル後、部長の田中美月さん(2年)に話を聞くと「思いのこもった合唱になるように頑張りたい」と意気込んだ。(錦城高校・山崎 本郷高校・阿部)



気持ちを込めて歌います

オープニング